

XVII. 弦楽器

(表 1 7)

A. 一般的な記号

1 7 - 1

弦楽器の音楽は、今までの記号を全て使用して点訳される。

1 7 - 2

弦、ポジション、バレ (訳注: リュートやギターの奏法の一つ)、ハーモニックスなどの特徴を表す、墨字における記号の標準化がなされていないため、点訳者は出来るなら演奏家としての弦楽器音楽の十分な知識を持つ必要がある。

1 7 - 3

国によっては、すべての器楽曲に対して、音部記号を前置符として用いている。音部記号が使用されると、和音の音程と部分けを読む方向が決定する。ハ音記号は、ヴィオラでは下に向かって読み、チェロとコントラバスでは上に向かって読む。音部記号がない場合、注意書きが必要である。例 1 7 - 3 に使われている書式は役立つであろう。

例 1 7 - 3

⋅ ⋮ ⋮ ⋅ ⋅ ⋅ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮

1 7 - 4

小さな 8 を下に伴ったト音記号は、撥弦楽器のために時々使われるが、墨字で書かれた音より実際には 1 オクターブ下で鳴る事を示している。しかし、楽譜は墨字でのピッチで点訳される。

表 1 7 A の記号

⋮ ⋮	第 1 弦	⋮ ⋮	第 5 弦
⋮ ⋮	第 2 弦	⋮ ⋮	第 6 弦
⋮ ⋮	第 3 弦	⋮ ⋮	第 7 弦
⋮ ⋮	第 4 弦		

1 7 - 5

墨字では、弦はローマ数字かアラビア数字か文字で示される。墨字で使われている方法を説明する注意書きを、記さなくてはならない。

“sulG”のように言葉と文字が組み合わされている時は、墨字と同じように点訳されるべきである。

1 7 - 6

弦記号の次に来る音には、音列記号は必要ない。

1 7 - 7

(継続している線を表す) 継続記号は、連続の原則に従って記される。記号の2番目の符号だけを2回記す。

例 1 7 - 7

The example shows three rows of fret position notation (dots) and a musical staff. The first row has two dots. The second row has two groups of four dots each. The third row has two groups of three dots each. The musical staff shows a 4-measure phrase starting with a '4' above the first measure, followed by a 3-measure phrase starting with a '3' above the first measure of that phrase.

表 1 7 B の記号

⋮ ⋮	第 1 ポジション/フレット	⋮ ⋮ ⋮	第 7 ポジション/フレット
⋮ ⋮	第 2 ポジション/フレット	⋮ ⋮	第 8 ポジション/フレット
⋮ ⋮	第 3 ポジション/フレット	⋮ ⋮ ⋮	第 9 ポジション/フレット
⋮ ⋮	第 4 ポジション/フレット	⋮ ⋮ ⋮	第 10 ポジション/フレット
⋮ ⋮	第 5 ポジション/フレット	⋮ ⋮ ⋮	ハーフポジション
⋮ ⋮	第 6 ポジション/フレット		
⋮ ⋮	グリッサンド、あるいは、新しいポジションへの左手の移動		
⋮ ⋮ ⋮	左手移動ラインの始め		
⋮ ⋮ ⋮	左手移動ラインの終わり		

1 7 - 8

ポジション/フレット記号は通常弦記号に続き、弓記号やプレクトラム記号の前に置かれる。“ポジション”という言葉は指板が滑らかな楽器に用い、

“フレット”という言葉は指板にフレットがついている楽器に用いる。

1 7 - 9

墨字では、ポジションやフレットは通常、ローマ数字かアラビア数字で書かれる。墨字でどの種類が使われているかを表す注意書きを、記すべきである。

1 7 - 1 0

ポジション記号やフレット記号の次の音には、音列記号が必要である。

1 7 - 1 1

ポジション記号に続く線による継続記号は、 ::: のように3の点を二つ付けて表される。

この継続の終わりを示す記号 ::: は、影響を受ける最後の音の後に記され、もし他のポジション記号がすぐに続くならば、使われない。

例 1 7 - 1 1

The example shows three lines of musical notation. The top line consists of five groups of dots, each group representing a fret position (e.g., two dots for the 2nd fret, three for the 3rd, etc.). The middle line shows a sequence of these dot groups connected by a horizontal line, representing a glissando. The bottom line is a musical staff in G major (one sharp) and 4/4 time, showing a melodic line with a glissando line above it. The glissando line starts at the 5th fret (labeled 'V'), moves down to the 1st fret (labeled 'I'), then up to the 3rd fret (labeled 'III'), and finally down to the 5th fret (labeled 'V').

1 7 - 1 2

弓弦楽器と撥弦楽器の指使いは、VIII章「指使い」の項を参照せよ。パートB（訳注：弦楽器）に、記号と実例が書かれている。

1 7 - 1 3

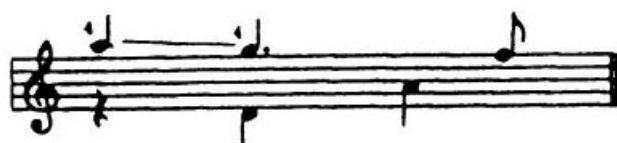
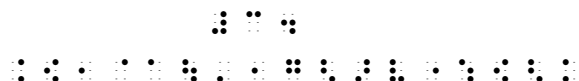
移動を示す線は、一般的にギター音楽や、時折、弓弦楽器音楽に見られる。それらは、墨字においても点字においてもグリッサンドのように見えるが、グリッサンドという言葉や略語がない限り、斜線は他のフレットかポジションに移動する事を示している。記号は影響を受ける音の間に置かれる。もし“glissando”という言葉や略語が墨字にあるならば、点字にも記すべきである。

1 7 - 1 4

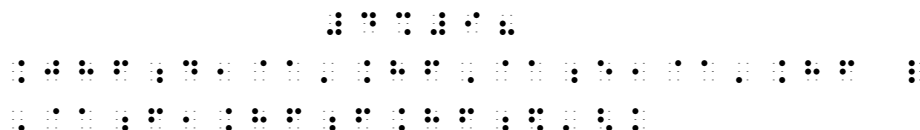
もし間に音が挟まれる時は（訳注：例 b）、上記の記号を使用して移動線の始めと終わりを示す必要がある。出来る限り、標準の記号を常に使用せよ。例(a)は標準の移動を示し、例(b)は、始めと終わりの記号の必要性と使用法を示している。

例 1 7 - 1 4

(a)



(b)



1 7 - 1 5

グリッサンドの記号は、影響を受ける 2 音の初めの音の後に置かれる。墨字にスラーが書かれている場合は、スラー記号はグリッサンド記号の前に記す。もしグリッサンドのために言葉か略語が墨字に書かれているならば、点字でも記されるべきである。

表 1 7 D の記号

- ⠆⠆⠆ 自然的ハーモニクスあるいは開放弦
- ⠆⠆⠆⠆ 技巧的ハーモニクス

1 7 - 1 6

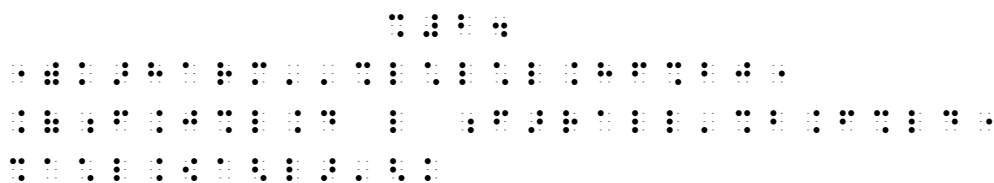
自然的と技巧的ハーモニクスは、墨字の形で見分けられる。技巧的ハーモニクス記号はひし形の音符に使われる。自然的ハーモニクス記号は、開放弦ではない丸形の音符の上にゼロがついているときに使われる。

1 7 - 2 1

例 1 7 - 2 1 では、略語に加えてひし形の音符が記されているので、技巧的ハーモニックスの記号と共に、略語と継続を示すラインを使用する。このギターの例では、墨字では G や B、E のような弦の名前を表す丸で囲まれた文字が書かれている。

点訳者は、G 線はギター音楽では第 3 弦、ヴァイオリン音楽では第 4 弦、ヴィオラ音楽では第 3 弦など、すべての弦楽器に精通していなければならない。小節線記号 ||: は、複雑な弦楽器音楽には有効である。

例 1 7 - 2 1



1 7 - 2 2

例 1 7 - 2 2 には、ハーモニックスを示すために、墨字にあるように“arm”という略語と第 12 フレットを表す記号の両方が記されている。指使い、弦記号、フレット記号はすべてアラビア数字で示されているので、それぞれの数字の意味を正確に理解するには、弦楽器の知識はここでも不可欠である。

例 1 7 - 2 2



1 7 - 2 3

自然あるいは技巧ハーモニックスの結合音（訳注：ハーモニックスに

17-28

バレは、墨字記譜法では2つの方法で表される。

- (1) 譜表の上方に、大文字だけ、あるいは数字や分数が組み合わせられて、バレが全部なのか一部なのか表す。
 - (2) 音符や和音の前に、譜表上に縦のカギカッコの記号を記す。
- 点訳において(1)では、墨字での記譜法を説明する注意書きが必要である。
(2)では、点字での縦のカギカッコ記号が、墨字にカギカッコがあることを示している。

17-29

全部のバレは通常、譜表の上方にCやBで示される。一部のバレを示す表示は、CやBの文字にスラッシュが付いているものや1/2C, 1/2B, PB, MC, MBなどがある。

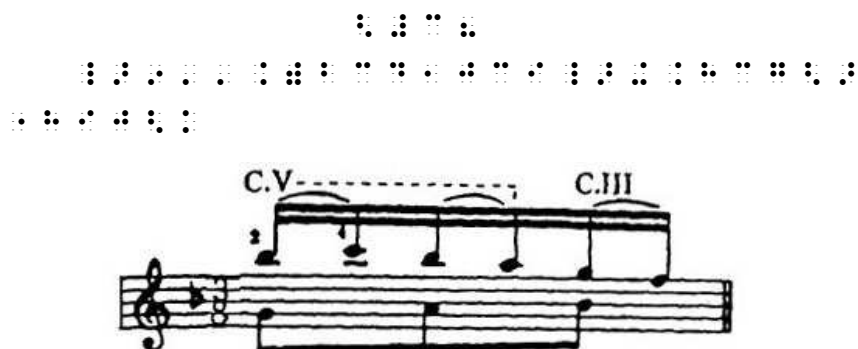
17-30

バレ記号の後、すぐにフレット記号を記す。フレット記号の後には、音列記号を記さなくてはならない。

17-31

例17-31は全部のバレを示していて、その後にローマ数字で第5ポジション/フレットとその継続線が続き、それが終わったところで、次のバレと第3ポジション/フレットが始まっている。それゆえ、継続記号の閉じは記されていない。

例17-31



17-32

例17-32は、継続線の終わりを示す記号を伴った、一部のバレを示している。

例 1 7 - 3 2

1 7 - 3 3

例 1 7 - 3 3 では、墨字譜表全体にカギカッコが縦に記されていて、両方の声部の頭の音のバレを示している。点訳においては、部分けの両方の頭に記す。

例 1 7 - 3 3

1 7 - 3 4

バレ記号の後にフレット記号が続かない時は、点訳ではフレット記号の最初の符号 (3・4・5 の点) を続けなくてはならない。例 1 7 - 3 4 では、フレット記号がないので、バレのカギカッコの影響を受ける部分けの両声部で、フレット記号単独の符号が使われている。

例 1 7 - 3 4

表 1 7 D の記号

- ⋮⋮ ダウンストローク (上から下への一打)
- ⋮⋮ アップストローク (下から上への一打)

表 1 1 の記号

- ⋮⋮ 下から上へのアルペジオ
- ⋮⋮⋮ 上から下へのアルペジオ

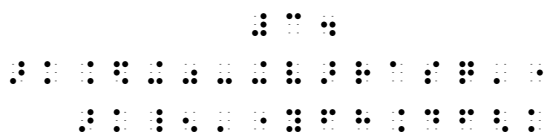
1 7 - 3 5

あるギター楽譜では、ダウンストロークの墨字の記号は上向きの矢印で、アップストロークの記号は下向き矢印である。(弦を横切って手を上から下に動かすという事は、低い音から高い音へとかき鳴らす事である)
 他の出版物では、上向き矢印はアップストロークを意味し、下向き矢印はダウンストロークを意味する。それゆえ注意書きで、墨字に示されている記号を説明する必要がある。

1 7 - 3 6

Rasgueado (和音を上下に急速にかき鳴らす特別なテクニック) のためには、ストローク記号よりもアルペジオ記号を使うべきである。上向き矢印には、⋮⋮を、下向き矢印には ⋮⋮⋮ の記号を使用する。もし矢印が両方向になっているなら、墨字に従って両方の記号を使用する。**Rasgueado** (スペルが違う事がある) などの言葉や略語は、墨字と同じように記すこと。

例 1 7 - 3 6



1 7 - 3 7

Golpe (たたく) と示されている時は、墨字に従って言葉か略語を使用する。それが休符上にある時は、休符の前に言葉か略語を記す。あるいは、音符や **Rasgueado** や他の記号の前か後ろか、墨字の場所に従う。

例 17-37

17-38

音符の上で終わっていないスラーや、どこにも繋がっていないスラーに、点訳者は注意しなくてはならない。
 例 17-38 はギター音楽で、音程を下から上に読むように、へ音記号で書かれている。
 経験を積んだ点訳者は、スラーは音符上で終わっていないし、音程で書かれた音も、次の2分音符とタイで繋がっていない事に気が付く。
 特別なスラー記号が、和音の各音の後に記される。もしスラーがギターの装飾を意味しているならば、このスラー記号は使用できる。

例 17-38

17-39

ギターのための右手の指使いは、VIII 章「指使い」のパート B 2 : 表 8 B (訳注：弦楽器の右手指使い) の記号と、8-10 及び 8-11 節に示されている。